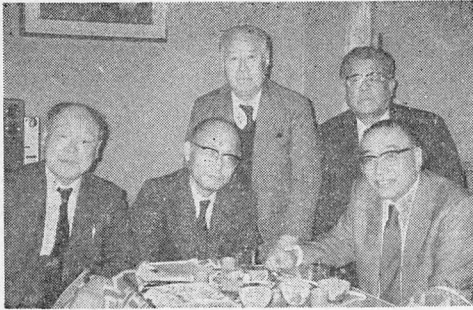


富山県が当番で、去る昭和六十二年七月十二日(日)午前十時から、富山市総曲輪四一八、富山県民会館七〇四号室で、第九回

北陸医史学会同好会総会並びに研究発表会を開催しました。

一般の演題は十題で、演者は延十四名でした。特別講演として、富山医科薬科大学参与中井精一氏の「献体運動あれこれ」と題された講演があり、日本医史学会関西支部長の長門谷洋治先生が「本邦女医第二号生沢くのについて」と題して講演くださいました。

また当日の第九回総会では、前年度の事業報告や会計報告などを行い、来年度は福井県が当番で総会や研究発表会の準備を



前列左より、加藤会長、多留幹事(石川)、河崎屋幹事(石川)。後列左より岩治幹事(福井)、松田幹事(富山)。

ことを報告承認されました。

なお、機関誌

『北陸医史』第九巻第一号誌は現在編集途中で、年度内には発行し会員に配布される予定です。

(加藤豊明)

日本医史学会関西支部近況報告

日本医史学会関西支部の前身、杏林温故会が徳川撰三・中野操・大矢全節の三氏の首唱によって発足したのは昭和十三年一月のことである。従って本昭和六十三年は、当支部の五十周年にあたる。戦前、戦後を通じて終始会の運営にあたってこられ、関西支部長の位置にあつた中野操先生は昭和六十一年三月二十一日、八十八歳で逝去された。当支部としては当分支部長の席は空席のままにしておき、先生の晩年に設けられた事務局により、対処して行きたいと思つている。

当支部はむろん関西地方の会員を主に構成されているが、日本医史学会の関西在任の会員すべてが網羅されているわけではなく、逆に関西以外から入会されている会員も多い。これは本会成立の歴史的経過、中野先生のお人柄によるところも少なくない。また春秋の大会は京都医学史研究会・医学史研究会(大阪)と共催させていただくことが多く、これらの会との交流は密である。また医学切手友の会関西支部にも当支部の会員が多数おられ、関西における医史学は中野先生の拓かれた土壌の上を確固たる足取りで歩み続けている。

本年の春季大会は中山沃会長のもと、津山洋学資料館の協力を得て岡山県津山市で開催される。当支部会員外のかたのご参加も歓迎する。

(連絡場所) 下瓦一堺市新金岡町三一―一二―三〇八 長門谷

譚 醫

復刊第55号

昭和62年5月

静岡県医学懇話会発行

『新刊』にらもつについて……………誌 本 費 一(1)

静岡県医師会入会希望……………費 寄 金(1)

静岡市立中央病院と医師……………寄 附 金(1)

西洋医学教育システム実務の歴史……………寄 附 誌

のふも、ボケナス……………誌

静岡市立中央病院、マール・ド・フランス、国際医療機関

……………寄 附 誌 一(1)129

日本医学史学会関西支部会報 (55:500-619)……………誌

日本医史学会関西支部発行

「医譚」表紙（復刊第55号昭和
62年5月）

研究会

静岡県医史学懇話会

本会は昭和五十四年五月県医師会の一 fractions として発足し、同年五月第一回総会で会則等を定め、会長に中川長一氏を推挙した。

現会長土屋重朗、副会長舟木茂夫、会員は四十五名。運営は委員会費と県医師会助成金（年九万円）で賄っている。

事務所（連絡場所）は静岡県医師会事務局（静岡市鷹匠三丁目六一三・電話〇五四二一六四一六一五）分科会係内にある。

本会は県医師会の分科会であるので県医会員なら誰でも入会できるが、医師会員でなくても県医史に興味を持ち、年会費を納めた者なら誰でも会員になれる。会費は年会費二千元、入会金不要、入会希望者は年会費を添えて住所・氏名・生年月日・職業（具体的に）を書き医史学懇話会入会希望と記入して前記事務所へ現金書留郵便または郵便振替（名古屋六一八五四一三、静岡県医史学懇話会）で申し込まれた。

機関誌は「会誌」を昭和六十年十二月に創刊号を、以後毎年十二月に一回宛発行している。これには総会記事・論文・探訪会報告・その他会の動き等を掲載している。今の処経費の関係でささやかな小冊子である。

総会は毎年六月に研究発表会を兼ねて開催、十月には毎年県内

洋治気付 日本医史学会関西支部

（入会方法）会費 一年三千元。振替番号大阪一―二七六四五

日本医史学会関西支部事務局

（機関誌）『医譚』（当分年一冊の予定、現在復刊五十五号まで刊行）

（機関紙）『関西支部たより』（不定期、年二〜三回、現在八号まで刊行）

（大会）春秋二回を原則とする。主として一般演題の発表。昭和六十三年は七月九日（土）・十日（日）、津山市にて。十一月十二日（土）・十三日（日）、大阪市にて（医学史研究会と共催）。例会・見学会などは最近は実施していない。

（長門谷洋治）